



細井えみか個展「Nailing to the beach」

会期:2024年2月1日(木)-2月25日(日)

開館時間:木金土日(月火水祝休) 13:00-18:00

(上記以外の時間でビューイングをご希望の方はご予約にて承ります。)

協賛 公益財団法人 松浦芸術文化財団

エステルオカダアートギャラリーでは、2023年2月1日(木)から2月25日(日)まで、細井えみかによる個展「Nailing to the beach」を開催いたします。



「Moving object - Chair」、2024年、ボルトナット、鉄、布、ウレタン、木材、キャスター、LEDライト

細井えみかは、鉄やボルトナット、クランプなどの工業的な素材やファブリックなど様々な素材を用いて立体作品を生み出しています。自身の制作について、『『知っている』と認識していることが、どれほど真実味を帯びたものか確かめる行為』であると述べる彼女は、これまでも我々が日常で当たり前のように目する物や風景に違和感を覚えさせるかのような作品を制作してきました。過去作が、家具や建物、商業施設における什器など身近に存在する製品を連想させながらも、それらが持つ本来の用途や意味を奪い、ショッキングとも言える感覚を覚えさせる「作品」となっていたのに対し、本展では、我々が普段注意を払うことのない、作品の裏側、もしくは目に見える「物の裏」への視点を導きつつ、表裏という対の概念自体についても問いかけます。本展のタイトルである「Nailing to the beach」とは、砂浜に釘を打つ、という意味です。無意味で不毛とも思われる行為に対し、無意味でない行為とは何なのか。我々が見ていると思っているものは、果たして実際に其所に存在するのか、さらには目を眩まされることなく本質を見ようとする自体に意味はあるのか。様々な問いを生み出すであろう本展に、是非ご来廊いただけますと幸いです。

【本展に寄せて】

—照らされているところに視線をやる。床があり、壁がある。



一つまむ、握る、指をひっかける。押したり引いたりしてみる。

一布地に手を触れる。自宅のソファの、ひんやりしたレザーの感触を思い出す。

道具を道具として扱うことに抗いたくなくなることがある。時刻を時刻として認識することがいやになることがある。名前と目的を与えられた物から、役割をひっぺがすことに夢中になっていたりする。「ぬかに釘」ということわざがある。食べ物と金物を組み合わせるのはナンセンスだと思うが、砂浜に釘を打つこともまた、同じように無駄なのかもしれない。けれど釘の頭に僅かに残るへこみや、砂にあいた穴から読み取れるのは、たしかにそこにあった行為の痕跡だ。

「無」を照らす物体、開かないフタ、それらは本展に存在するものである。物を物として認識することから解放されたいと思う。

2024年1月 細井えみか

【ステートメント】

深く腰掛けたソファの手触り、窓から見える家々のエッジの効いた屋根、道端で見上げた陸橋の接合部。気にも留めない些細な日常風景は、いつの間にか記憶の中に積み重なって、大きな安心感に繋がっていく。私にとって物事を「知っている」状態は、自らの精神的支柱となり安寧を生み出す基盤である。けれど頭の中に漠然と存在している記憶やイメージは、身体の器官を通して仕入れた情報を、自分自身で無意識に取捨選択した結果に過ぎない。私の制作は、見たことのあるもの、触ったことのあるもの、あるいは肌で感じたことのある気配など、五感を通じた情報により「知っている」と認識していることが、どれほど真実味を帯びたものかを確かめる行為である。安心の出处を探するため、日常生活にひっそりと存在している要素を掻い摘みでは、「これは何だったか」の記憶を辿る。

細井えみか | Emika Hosoi

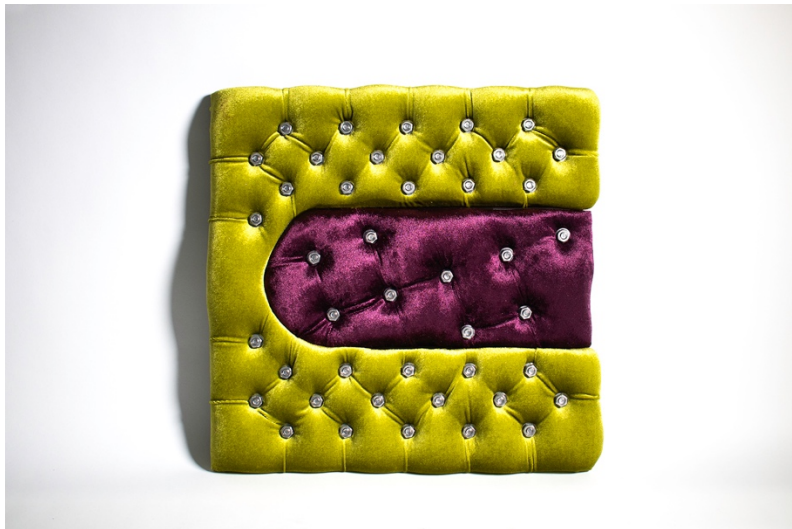
1993年タイ生まれ。2018年武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻彫刻コース修了。現在、本学共通彫塑研究室助教。主な活動歴に、2018年個展「確かめる行為」Zula Art Gallery(東京)、2019年「くねっぷ・アート・タウン・プロジェクト」にて公開制作および作品設置(北海道)、2021年個展「Swimming Focus / 覚束ないピント」Esther Okada Art Gallery(東京)、2022年「第17回 KAJIMA 彫刻コンクール入選作品展」鹿島 KIビル(東京)、あすとホール(大阪)、「CARt SAITAMA 2022」ステラタウンほか(埼玉)、個展「mutation vol.3 ~Pretending objects~」JMUNSELL(東京)、グループ展「困らせる糸鋸」クマ財団ギャラリー(東京)、「ふりをする / Camouflage」美容室 L' arte(東京)、2人展「くさいモノに、フタをする」bluedress SHIBUYA(東京)、個展「BODYLESS body」Esther Okada Art Gallery(東京)、2023年「ART FAIR TOKYO」ボヘミアンズギルドより出品(東京)、住友商事本社ビル24階にて作品展示(The Chain Museum によるキュレーション)、「sanwacompany Art Award / Art in the House 2023 入選展」サンワカンパニー東京ショールーム(東京)、個展「Lull itself」Bohemian's Guild CAGE(東京)、グループ展「18/40 展 produced by ArtSticker」アートカビーフンカ白厨(東京)、Study:大阪関西国際芸術祭に出展(大阪)などがある。2023年TBSドラマ「18/40 ~ふたりなら夢も恋も~」作品協力。

Website: <https://emikahosoi.com/>

Instagram: @emikahosoi



「Door I」、2024年、ボルトナット、布、ウレタン、木材



「Door II」、2024年、ボルトナット、布、ウレタン、木材

【本展に関するお問い合わせ先】

エステルオカダアートギャラリー | ESTHER OKADA ART GALLERY

東京都渋谷区代々木 5-24-10

www.zulaarts.com

EMAIL: esther@zulaarts.com/ TEL: 03-4500-7231

Also find us on Artsy:

